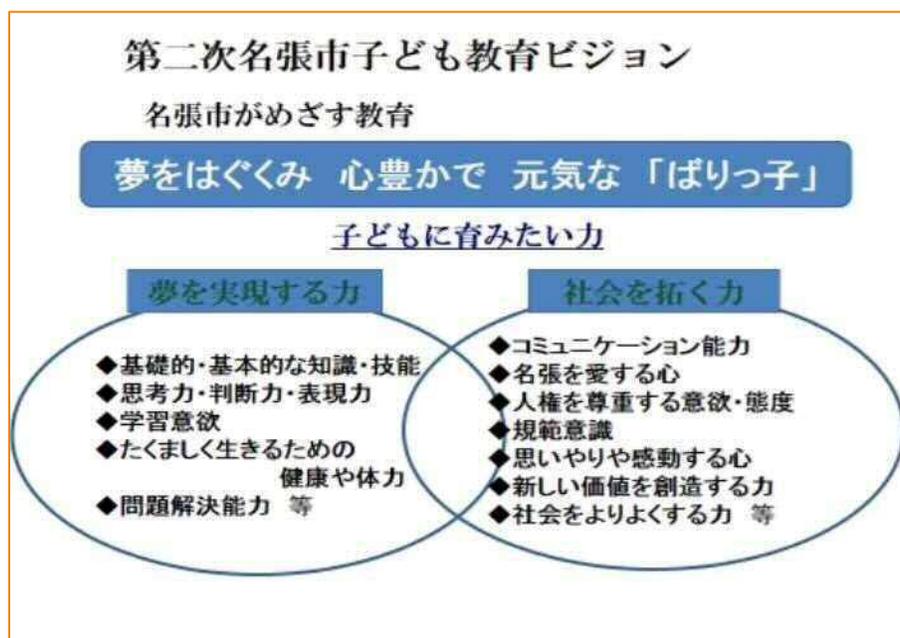


名張市における接続期のカリキュラム

1 接続期のカリキュラムの必要性

本市では、第2次名張市子ども教育ビジョンにおいて、子どもに育みたい力を「夢を実現する力」「社会を拓く力」とし、「しっかりつなぐ育ちのバトン」を基本方針の1つに据え、その施策の中に「就学前教育の充実」を掲げ取組を進めています。幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小中学校の連携を強化すること、幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資質・能力の向上を図ること、接続期のカリキュラムを編成することが主な取組です。接続期のカリキュラムについては、幼児期の年長から小学校低学年の期間を子どもの発達や指導方法の連続性を踏まえた「接続期」と捉え、カリキュラムを編成するとしています。

前述の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児後半の評価の手立てともなるものであり、幼稚園等と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られることが期待できます。小学校の各教科等においても、カリキュラムの中で、合科的・関連的な指導や短時間での学習などを含む授業時間や指導の工夫、環境構成等の工夫を行うとともに、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、幼児期に生まれた資質・能力を徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく必要があります。

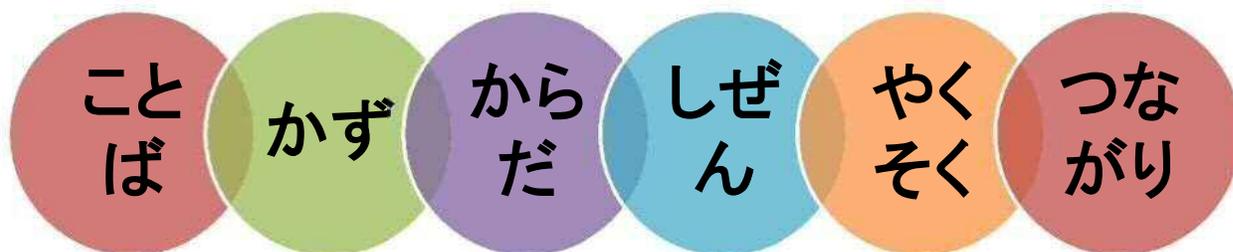


2 接続期のカリキュラムの考え方

本市における接続期のカリキュラムは、こうした「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、名張市のめざす教育の実現に向け、5歳児の4月から小学校1年生の3月までの2年間で、「幼児期における学びの土台の力」＝「学びの芽」を小学校における教科学習に丁寧につなぐ役割を担うものです。

幼児期における「学びの土台の力」＝「学びの芽」は、小学校における教科学習への見通しをもちながら、遊びや生活の中で個々の発達や興味関心に応じながら育んでいくものです。小学校教育の前倒しや早期教育を実施するなかで獲得されるものではありません。幼い子どもは歩く練習をして歩けるようになるのではなく、立って歩く前にしっかりハイハイをし、ハイハイの中で身体の筋力や平衡機能などを身に付けこれらの力が土台となって、つかまり立ち、つたい歩きをへて、一人歩行ができるようになることと同様です。幼児期に育むべき様々な力を幼児教育の特徴である環境を通して行うことで、小学校の学びの土台ができあがります。

接続期のカリキュラムは、これらの力が「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の中で総合的に育まれることを前提としながら、名張市の子どもに育みたい力にをらし、幼児期における「学びの土台の力」＝「学びの芽」を**6つの重点カテゴリ**として抽出することで編成していきます。6つの重点カテゴリは、〈ことば〉〈かず〉〈からだ〉〈しぜん〉〈やくそく〉〈つながり〉とします。



これらの重点カテゴリを、小学校1年生の教科・領域の学習との連続性を意識し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の先を見通すために、教科・領域につなげていきます。

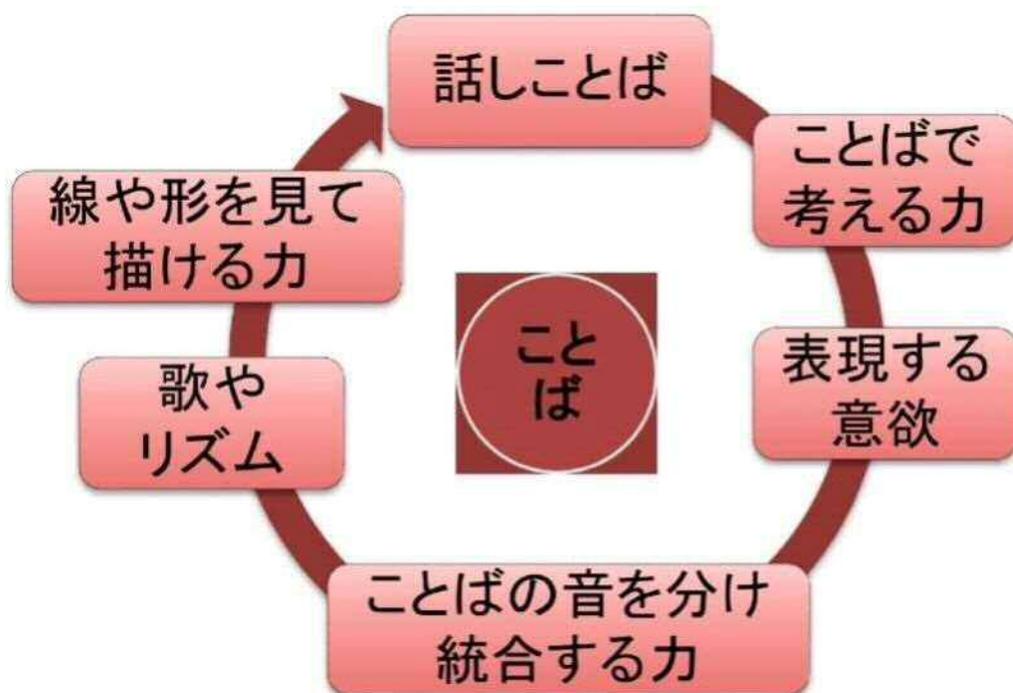
3 接続期のカリキュラムのねらいと重点内容〈5歳児〉

ことば

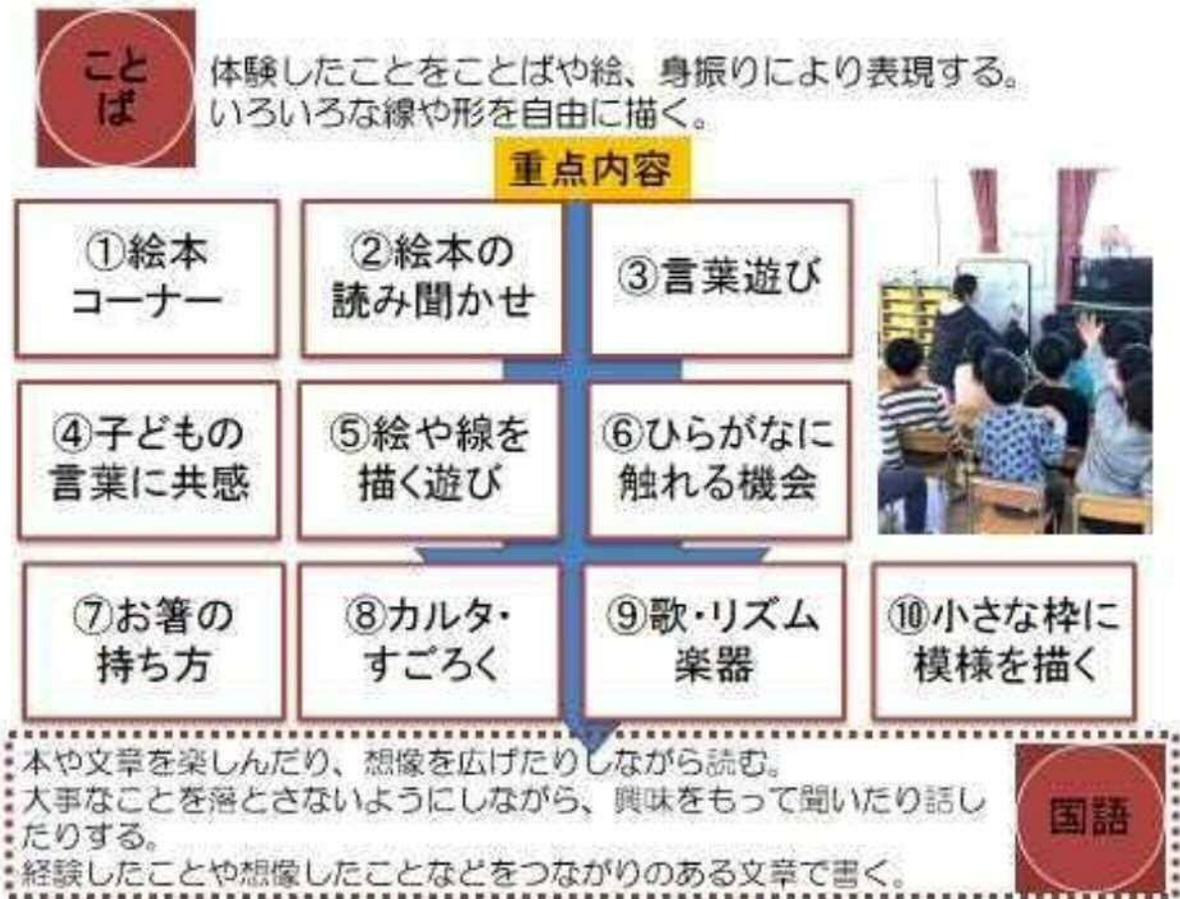
〈ことば〉

- ◆ 体験したことをことばや絵、身振りにより表現する
- ◆ いろいろな線や形を自由に描く

〈ことば〉の力の前提となる「学びの土台の力」＝「学びの芽」は、話し言葉を十分に使用し、ことばで考える力が育っていることであり、これは、文字の獲得のみならず、主体的な学びの基礎となる重要な力です。ほかには、線や形を見て描ける力：「視覚～運動統合能力」が育っていることや、言葉の音を分けたり統合したりできる力：「音節分解・音韻抽出」の力が育っていることや、感動したことを伝えたいという表現意欲や、思いのままに歌ったりリズム遊びを楽しんだりする表現の土台が育っていることなどがが必要です。また、これらの「学びの芽」を育み小学校における教科学習につなげていくために、接続期のカリキュラムの中に重点カテゴリとして〈ことば〉を設けます。〈ことば〉のカテゴリのねらいは、「体験したことを話し言葉や絵、身振りにより豊かに表現する。いろいろな線や形を自由に描くことができる。」としています。



<ことば> のカテゴリの 10 項目の重点内容は次のとおりです。



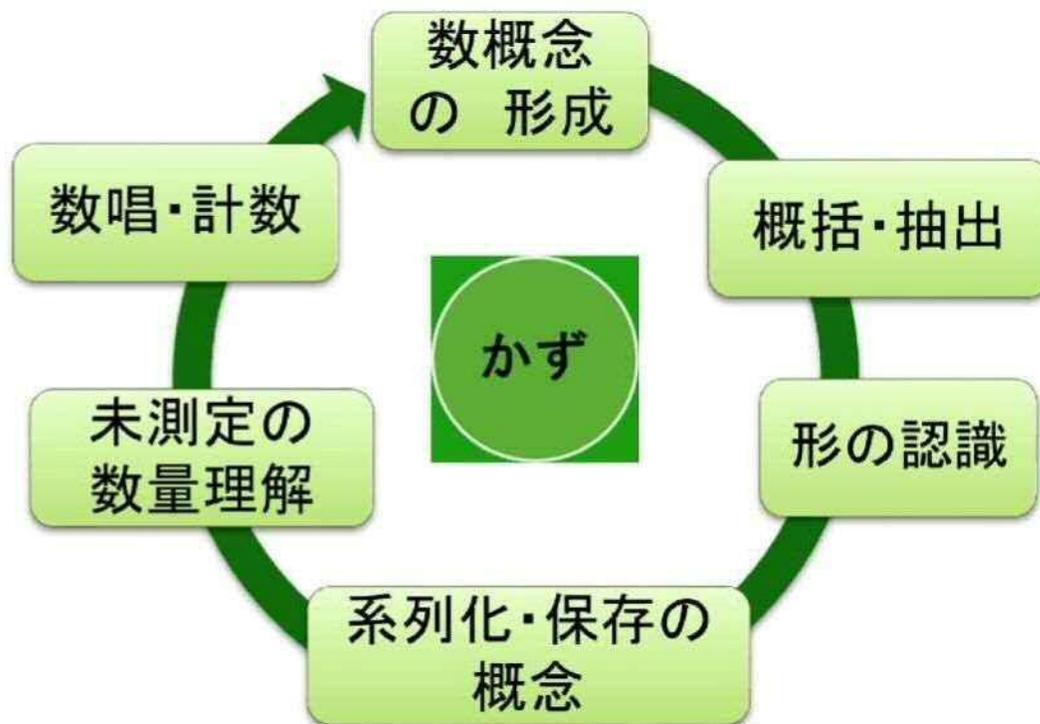
- ① 保育室に「絵本コーナー」を設置し、絵本や図鑑に触れる意欲を促す。
- ② 言葉に興味・関心を広げられるように、保育者が絵本の読み聞かせを毎日継続する。
- ③ なぞなぞ、しりとりなど、言葉や言葉のリズム、やりとりなどを楽しむ言葉遊びをする。
- ④ 保育者が子どもの言葉に共感し、豊かな言葉にして返すことで表現する土台を育む。
- ⑤ 絵や線を描く遊びを通して、表現を豊かにする。
- ⑥ 話し合いで決まったことや予定などを書いておき、ひらがなに触れる機会を増やす。
- ⑦ おはしの持ち方から鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。
- ⑧ カルタ・すごろく遊びをして、文字や言葉に興味・関心を広げる。
- ⑨ 歌のなかの言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。
- ⑩ 小さな枠の中に絵や模様を描く遊びを取り入れる。

<かず>

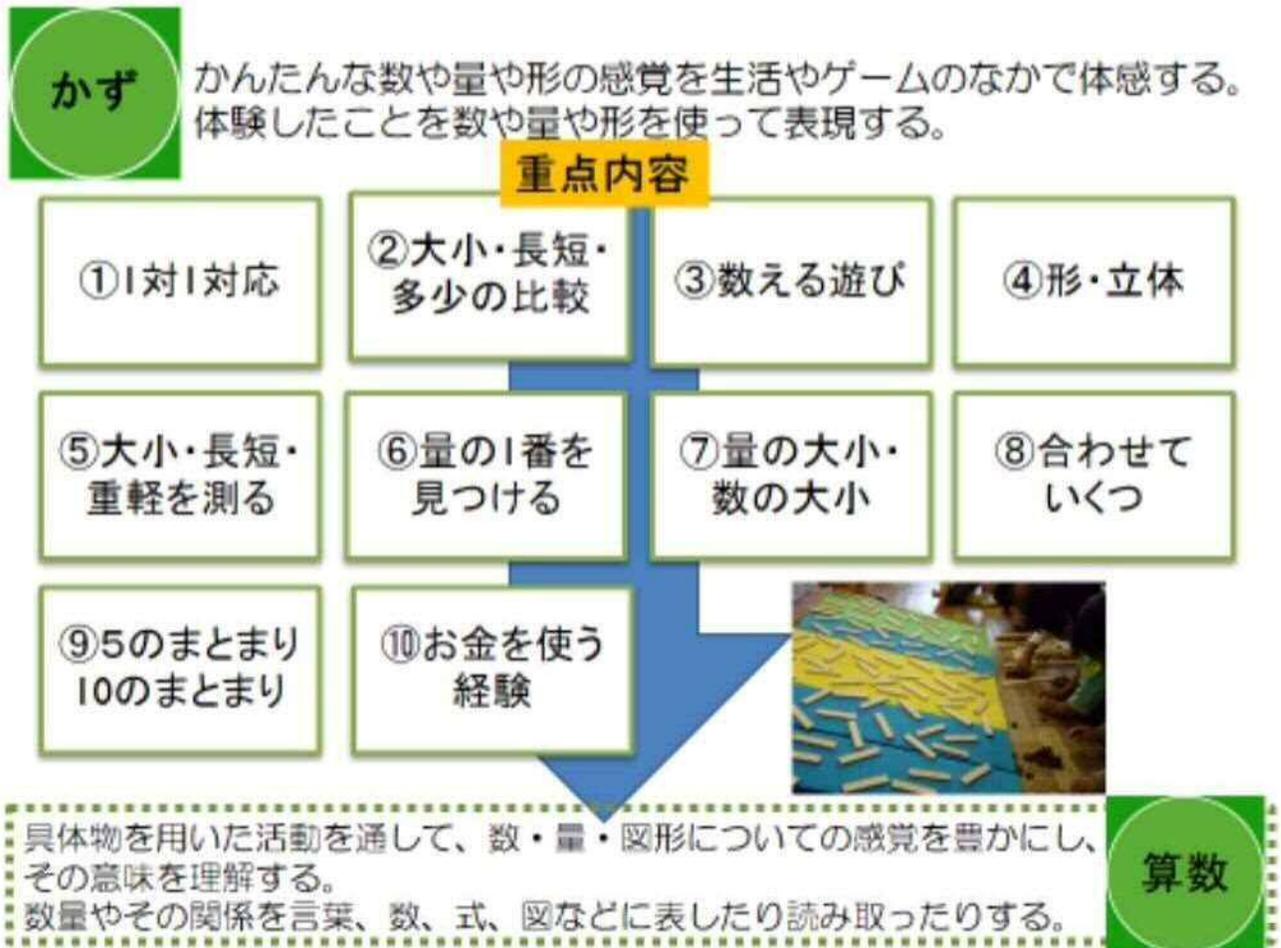
かず

- ◆ かんたんな数や量や形の感覚を生活や遊びの中で体感する
- ◆ 体験したことを数や量や形を使って表現する

<かず>の基礎となる「学びの土台の力」=「学びの芽」は、十程度の数概念の形成が重要となります。十程度の数概念は、整数を小さい方から唱えることができる：数唱や、数字と具体物を一対一対応させて物の数を数えていく：計数や、10を一つのまとまりとして理解したり内包関係を認識したりする：概括や、全体からいくつかを抽出する：抽出 等の力により形成されるものです。また、「多い・少ない」「長い・短い」「大きい・小さい」などの未測定の理解や、仲間あつめなどの集合づくり、大きさの順に並べたりする系列化の思考や保存の概念、さらには、自然界のさまざまな形に気付いたり、積み木やボールなどの立体に触れたりする経験を経て、<かず> 学びの土台が作り上げられます。<かず> のカテゴリのねらいは、「かんたんな数や量や形の感覚を生活や遊びの中で体感する。」「体験したことを数や量や形を使って表現する。」としています。



<かず> のカテゴリの 10 項目の重点内容は次のとおりです。



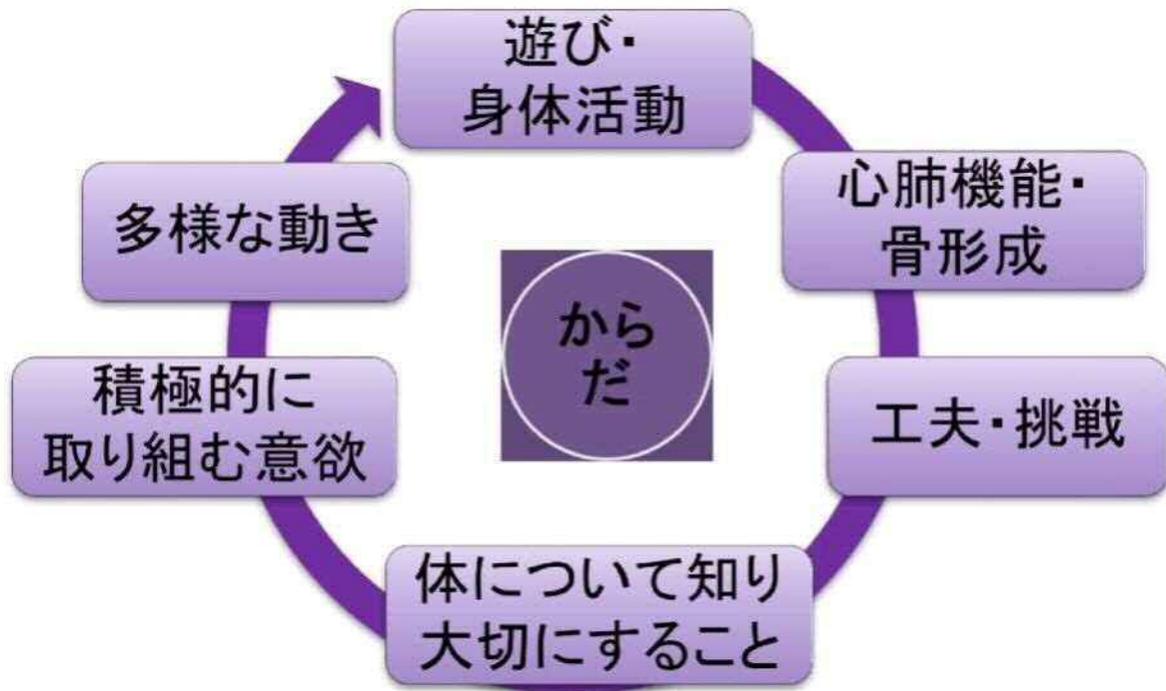
- ① 指さしのリズムと口（言葉）のリズムが合うように、1対1対応させて数える遊びをする。
- ② 大きい小さい、長い短い、多い少ないなどを比べる機会を持つ。
- ③ 縄跳びの跳ぶ数など、続けて数える遊びをする。
- ④ 形を組み合わせたり立体に触れたりする遊びを行う。
- ⑤ 身近なものの大小・長短・重い軽いなどいろいろなものを測る。
- ⑥ 身近な量の一番を見つける遊びを行う。
- ⑦ 玉入れなど、量の大小と数の大小を同時に比べる遊びを行う。
- ⑧ 少ない数で「合わせていくつになるか」クイズをする。
- ⑨ 5のまとまり、10のまとまりのゲームを行う。（すごろく等）
- ⑩ 買い物ごっこなど、お金を使う経験を取り入れる。

<からだ>

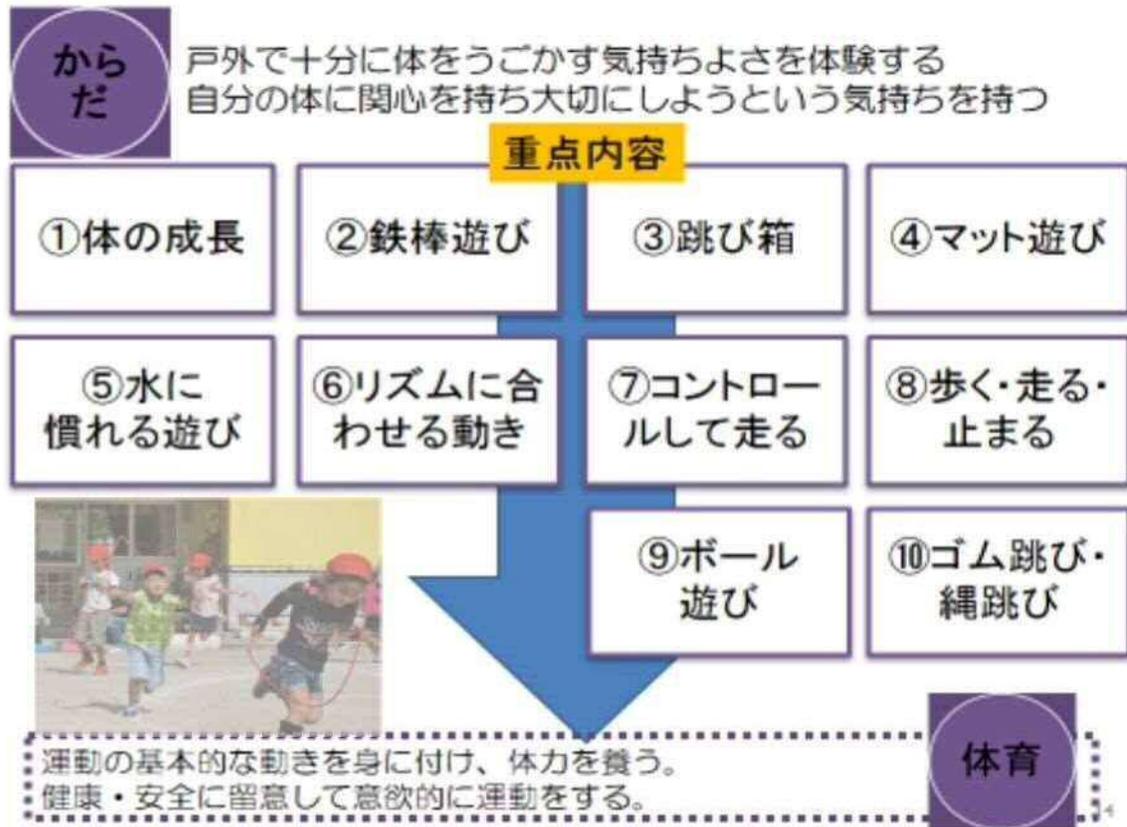
からだ

- ◆ 戸外で十分に体を動かす気持ちよさを体験する
- ◆ 自分の体に関心を持ち大切にしようという気持ちを持つ

幼児は心身全体を働かせて様々な活動を行うので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていきます。このため、幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなります。遊びとしての運動は、大人が一方向的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分たちの興味や関心に基づいて進んで行うことが大切であるため、幼児が自分たちで考え工夫し挑戦できるような指導が求められます。また、自分の体について知り、清潔にしたり大切にしたりする気持ちを芽生えさせることも大切です。<からだ>のカテゴリのねらいは、「戸外で十分に体を動かす気持ちよさを体験する。「自分の体に関心を持ち大切にしようという気持ちを持つ。」とします。



<からだ> のカテゴリの 10 項目の重点内容は次のとおりです。



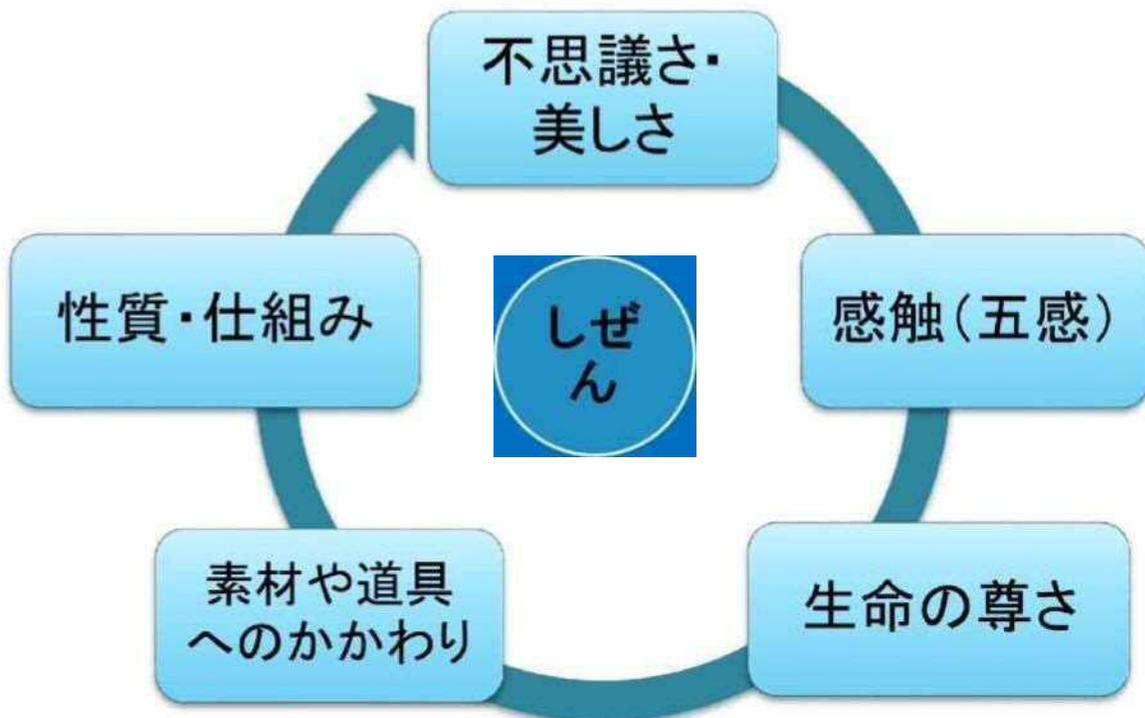
- ① 体の成長を知ること、自分の体に関心を持ち、大切にしようとする。
- ② すすんで戸外で体を動かして遊び、鉄棒をつかった遊びを楽しむ。
- ③ 「跳び箱」等、手足の力を総合的に使った運動遊びを楽しむ。
- ④ 「マット遊び」等、体を柔軟に使う運動遊びを楽しむ。
- ⑤ 水にかかる・浮く等、水に慣れる遊びをする。
- ⑥ 音やリズムに合わせて動きをコントロールする面白さを味わう。
- ⑦ 全力でトラックを走ったり、くねくね走や障害物をこえたり、体をコントロールして走ることを楽しむ。
- ⑧ 「いす取りゲーム」「こおり鬼」など、歩く・走る・止まるなど体を操作する遊びをする。
- ⑨ ドッチボール、サッカー遊びなど、基本的な動きを多様な動きに発展させるボール遊びを楽しむ。
- ⑩ ゴム跳び、縄跳びなど、全身を使った跳躍運動を楽しむ。

<しぜん>

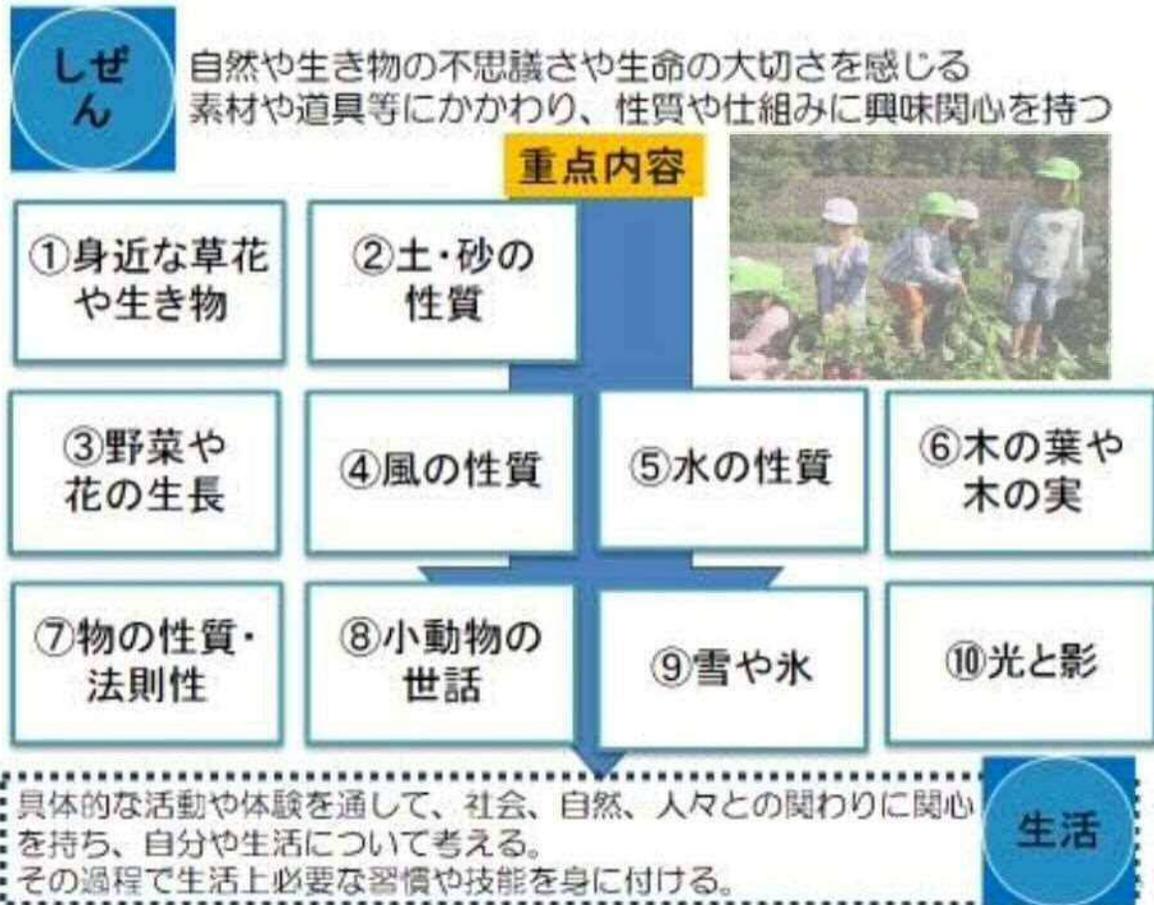
- ◆ 自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる
- ◆ 素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ

しぜん

自然に触れて遊ぶ中で、幼児は全身で自然を感じ取る体験により、心がいやされると同時に、多くのことを学んでいます。特に、幼児期において、自然に触れて生活することの意味は大きく、できるだけ身近な自然に触れる機会を多くし、幼児なりにその大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取る体験をもつようにすることが大切です。また、幼児は、様々な物に囲まれて生活し、それらに触れたり、確かめたりしながら、その性質や仕組みなどを知っていきます。初めは、感触を試し、物とのかかわりを楽しんでいます。興味をもって繰り返しかかわる中で、次第にその性質や仕組みに気付き、幼児なりに使いこなすようになります。物の性質や仕組みが分かり始めるとそれを使うことによって一層遊びが面白くなり、物とのかかわりが深まります。物の性質や仕組みに気付くことと遊びが面白くなることが循環していきます。<しぜん> のカテゴリのねらいは、「自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる。」「素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ。」とします。



<しぜん> のカテゴリの 10 項目の重点内容は次のとおりです。



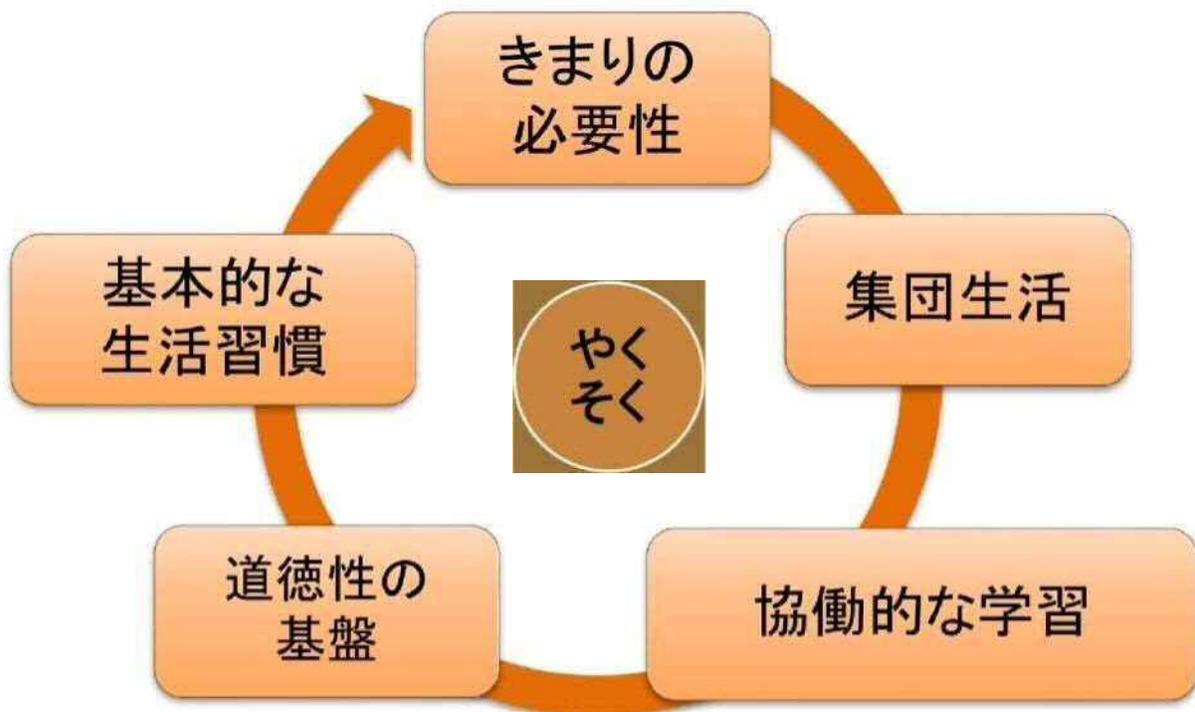
- ① 身近な草花や生き物に親しみ、自然の不思議さに気付く遊びをする。
- ② 土・砂の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。
- ③ 野菜や花の特徴や生長に興味をもって世話をする。
- ④ 吹き流し、紙飛行機、シャボン玉など、風に興味をもち性質に気付く遊びをする。
- ⑤ 水の性質に気付き面白さがわかる遊びをする。
- ⑥ 木の葉や実を集め、自然の変化の不思議さや美しさに気付く遊びをする。
- ⑦ 転がし遊びやゴムのおもちゃ作りなど、物事の法則性に気付き面白さがわかる遊びをする。
- ⑧ 身近な小動物や生き物の命の大切さに気付きながら世話をする。
- ⑨ 雪遊びや生活の変化など、雪や氷、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付く遊びをする。
- ⑩ ステンドグラスや影踏み遊びなど、光と影に興味を持ち性質に気付く遊びをする。

<やくそく>

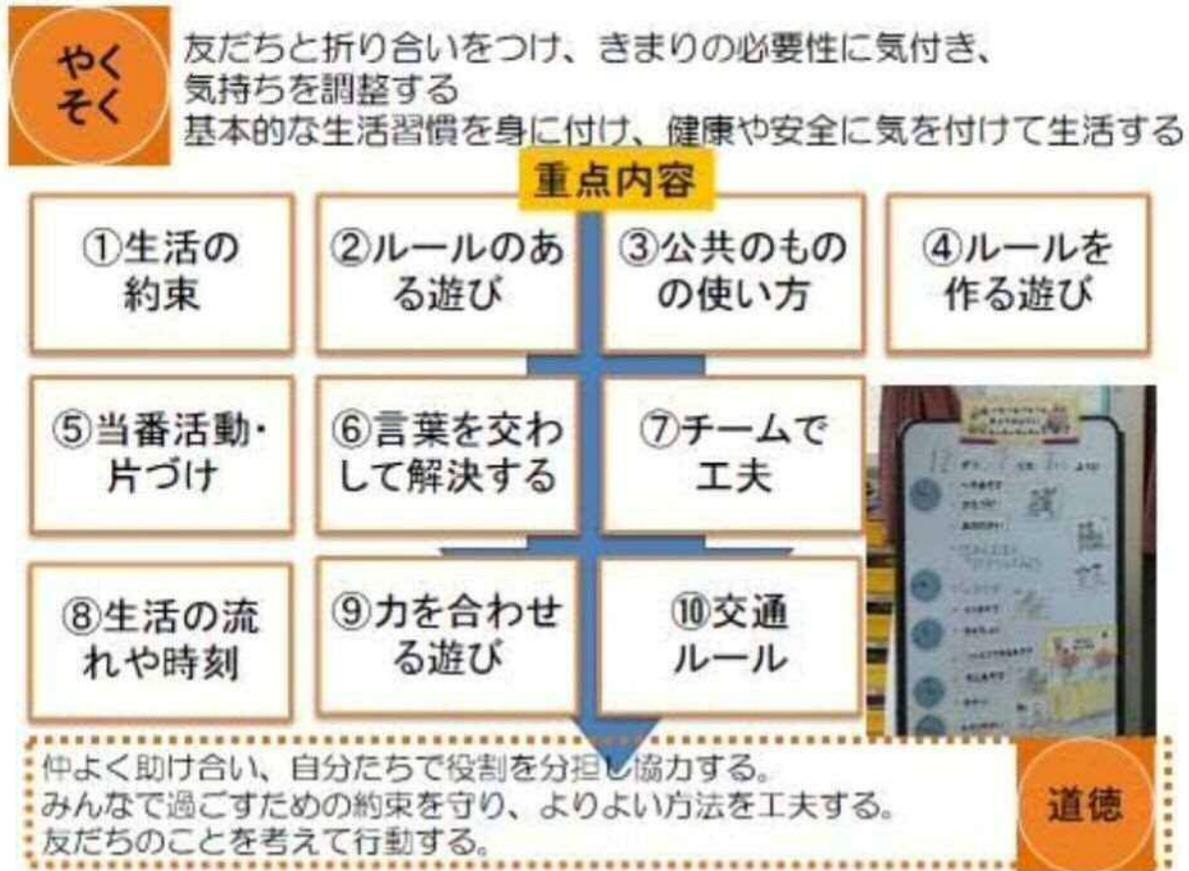
- ◆ 友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気付き、気持ちを調整する
- ◆ 基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する

やく
そく

人と人とが尊重し合い、協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会の決まりがあります。幼児は、初めからそうした決まりを守ることができるわけではありません。また、集団行動の訓練のように画一的に指導し、守らせさえすればよいということでもありません。幼児自身が、集団生活や友達との遊びの中で様々な決まりがあることに気付き、決まりの必要性やその意味を幼児なりに理解した上で、守ろうとする気持ちをもつことが大切です。それとともに、それぞれが基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活しようとする気持ちを育むことも合わせて大事なことです。<やくそく> のカテゴリのねらいは、「友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気付き、気持ちを調整する。」「基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する。」とします。



<やくそく> のカテゴリの10項目の重点内容は次のとおりです。



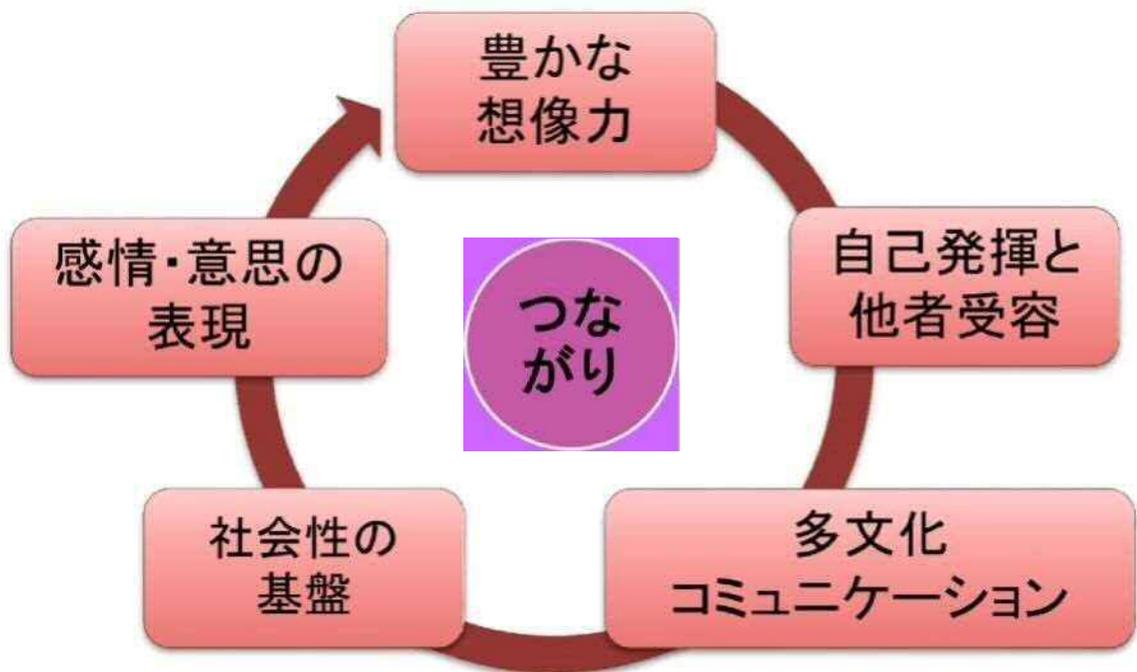
- ① 登園してから降園するまでの一日の生活の約束をまもって生活する。
- ② 伝承遊びや運動遊びなど、様々なルールのある遊びをする。
- ③ みんなで使うものや公共のものの使い方を考える。
- ④ ボール遊びや渦巻きじゃんけんなど、ルールを作る遊びをする。
- ⑤ 当番活動や片づけなどの決まりを作ることで、皆が気持ちよく生活できることに気付く。
- ⑥ 友だちと意見が違った時など、言葉を交わして解決する経験をする。
- ⑦ 大勢の友だちがかかわる遊びを通して、ルールなど工夫したりチームに分かれたりして遊びを発展させる。
- ⑧ 集団生活の流れや時刻を意識し、皆と一緒に行動しようとする。
- ⑨ 大縄跳びなど、みんなで力を合わせる遊びをする。
- ⑩ 交通ルールを守って歩いたり危険から身を守る知識を持つ。

つな
がり

<つながり>

- ◆ 自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる
- ◆ いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する

幼児期には、身近な人や周囲の物、自然などの環境とかかわりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていくとともに、食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得していく時期でもあります。また、子ども同士で遊ぶことなどを通じ、豊かな想像力をはぐくむとともに、自らと違う他者の存在や視点に気づき、相手の気持ちになって考えたり、時には葛藤をおぼえたりする中で、自分の感情や意志を表現しながら、協同的な学びを通じ、十分な自己の発揮と他者の受容を経験していきます。こうした体験を通じ、道徳性や社会性の基盤がはぐまれていくものです。<つながり>のカテゴリのねらいは、「自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。」「いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する。」とします。

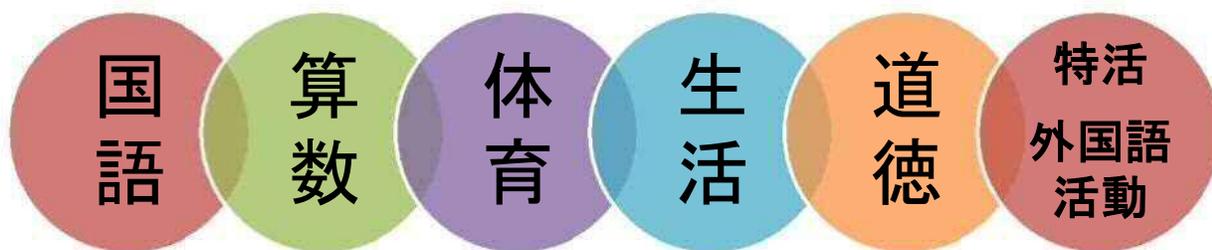


<つながり>のカテゴリの10項目の重点内容は次のとおりです。



- ① 散歩の時など、地域の人に触れ合う機会を持つ。
- ② ALTとはじめましての出会いをする。
- ③ 七夕お楽しみ会や運動会にむけて、地域の人や卒園生にあてた絵の招待状をつくる。
- ④ 学校探検などで地域の小学生と交流を持つ。
- ⑤ ALTの国の歌や手遊びを楽しむ。
- ⑥ 地域の方々や小学生に遊びを教わりながら遊んだり、運動会などに一緒に参加する。
- ⑦ 仕事に関心を持ち、お店屋さんごっこなど役割遊びの中に取り入れ発展させる。
- ⑧ ALTの国の絵本などを楽しむ。
- ⑨ 小学校へのあこがれを育てる遊びや活動をする。
- ⑩ ALTの国の冬の行事や遊びの歌を楽しむ。

4 接続期のカリキュラムのねらいと重点内容〈1年生〉



接続期のカリキュラムのうち、1年生については、5歳児の6つの重点カテゴリからつながる内容を抽出し、重点的に取り組む内容を挙げています。1年生の教育課程内の教科・領域、「国語」「算数」「生活」「音楽」「図画工作」「体育」「道徳」「特別活動」のなかで、5歳児の6つの重点カテゴリ〈ことば〉〈かず〉〈からだ〉〈しぜん〉〈やくそく〉〈つながり〉とつながるものをそれぞれ〈国語〉〈算数〉〈体育〉〈生活〉〈道徳〉〈特活・外国語活動〉の6つとしました。〈外国語活動〉については、名張市が小中一貫教育において、1、2年生からの実施を進めているところで、接続期のカリキュラムが実施されれば、5歳児から10年間を見据えた一貫教育が実現します。

小学校1年生の6つのカテゴリについては、それぞれの教科・領域としての目標がありますが、接続期のカリキュラムにおいては、それぞれのカテゴリごとに重点におくねらいを定めています。

国語

〈国語〉

- ◆ 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。
- ◆ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞いたり話したりする。
- ◆ 経験したことや想像したことなどをつながりのある文章で書く。

算数

〈算数〉

- ◆ 具体物を用いた活動を通して、数・量・図形についての感覚を豊かにし、その意味について理解する。
- ◆ 数量やその関係を言葉・数・数・式などに表したり読み取ったりする。

体育

<体育>

- ◆ 運動の基本的な動きを身に付け、体力を養う。
- ◆ 健康・安全に留意して意欲的に運動をする。

生活

<生活>

- ◆ 具体的な活動や体験を通して、社会、自然、人々との関わりに関心を持ち、自分や生活について考える。
- ◆ その過程で生活上必要な習慣や技能を身に付ける。

道徳

<道徳>

- ◆ 仲よく助け合い、自分たちで役割を分担し協力する。
- ◆ みんなで過ごすための約束を守り、よりよい方法を工夫する。
- ◆ 友だちのことを考えて行動する。

特活 外国語 活動

<特活・外国語活動>

- ◆ 自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。
- ◆ 異文化を知り、いろいろな人とコミュニケーションを図る楽しさを体験する。

5 接続期のカリキュラムの実践

9月に行われた第1回幼児教育の推進体制構築事業実行委員会において、「接続期のカリキュラム（案）」が提案されたのち、公立2幼稚園の園内研修にてご意見をいただき、第2回幼児教育の推進体制構築事業実行委員会にて検討を加えたものを【試行版】「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」としています。その【試行版】「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」を平成29年度4月より、モデル幼稚園にて試行していく予定です。1年間の実践と検証結果をカリキュラムに反映させたものが「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」【確定版】となります。

カリキュラムの試行にあたっては、【試行版】「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の内容を重点取組とした「週案」を作成していくこととなります。カリキュラムの内容を重点取組として意識し取り組む中で見えてきた個々の姿をエピソードとして記録していきます。このエピソードこそが、子どもの育ちの軌跡であり、これらの子どもの姿を通して、幼児教育を小学校教育へつないでいくことができます。

6 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」（試行版）

<次項参照>

しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム試行版

＜幼児教育の推進体制構築事業実行委員会＞

		5歳児				1年生			
		年長Ⅰ期	年長Ⅱ期	年長Ⅲ期	年長Ⅳ期	小ⅠⅠ期	小ⅠⅡ期	小ⅠⅢ期	
		4～5月	6～8月	9～12月	1～3月	4～5月	6～11月	12～3月	
ことば	<p>言① 保育室に「絵本コーナー」を設置し、絵本や図鑑に触れる意欲を促す。</p> <p>言② 言葉に興味・関心を広げられるように、保育者が絵本の読み聞かせを毎日継続する。</p>	<p>言① なぞなぞ、しりとりなど、言葉や言葉のリズム、やりとりなどを楽しむ言葉遊びをする。</p> <p>言② 保育者が子どもの言葉に共感し、豊かな言葉にして返すことで表現する土台を育む。</p> <p>言③ 絵や線を描く遊びを通して、表現を豊かにする。</p>	<p>言① 話し合いで決まったことや予定などを書いておき、ひらがなに触れる機会を増やす。</p> <p>言② おはしの持ち方から鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。</p>	<p>言① カルタ・すごろく遊びをして、文字や言葉に興味・関心を広げる。</p> <p>言② 歌のなかの言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。</p> <p>言③ 小さな枠の中に絵や模様を描く遊びを取り入れる。</p>	<p>国 「どうぞよろしく」で自分の名前を丁寧に書き自己紹介をする。</p> <p>国 「ぶんをつくらう」で主語と述語の関係に注意して「～が、～する。」という文型の文を書く。</p>	<p>国 「あいうえおであそぼう」で語のまとまりや内容、言葉のおもしろさを楽しみながら読む。</p> <p>国 「くじらぐも」で場面の様子を想像し、その様子が表れるように音読する。</p> <p>国 「ひらがなあつまれ」で平仮名を読んだり書いたりする。</p>	<p>国 「ものの名まえ」でお店屋さんごっこをし、商品の絵と名前をカードに書いたり、看板やチラシを作ったりする。</p> <p>国 「てがみでしらせよう」で経験したことから題材を選び、文と文の続き方に注意して手紙を書く。</p>	国語	
かず	<p>数① 指さしのリズムと口(言葉)のリズムが合うように、1対1対応させて数える遊びをする。</p> <p>数② 大きい小さい、長い短い、多い少ないなどを比べる機会を持つ。</p>	<p>数① 縄跳びの跳ぶ数など、続けて数える遊びをする。</p> <p>数② 形を組み合わせた立体に触れたりする遊びを行う。</p> <p>数③ 身近なものの大小・長短・重い軽いなどいろいろなものを測る。</p>	<p>数① 身近な量の一番を見つける遊びを行う。</p> <p>数② 玉入れなど、量の大小と数の大小を同時に比べる遊びを行う。</p> <p>数③ 買い物ごっこなど、お金を使う経験を取り入れる。</p>	<p>数① 5のまとまり、10のまとまりのゲームを行う。(すごろく等)</p> <p>数② 少ない数で「合わせていくつになるか」クイズをする。</p>	<p>算 「なかまづくりとかず」で絵に数図ブロックを1対1で対応させて置いて数え、数字で表す。</p> <p>算 「いくつといくつ」で10までの数の合成分解をし、10の補数について求める。</p>	<p>算 「たしざん」で身近な場面で見つけた算ができる場面を見つけ、たし算の式に表して正しく計算する。</p> <p>算 「どちらがながい」「どちらがおおい」「どちらがひろい」で長さや体積や面積などの大きさに関心を持ち、比べ方を考えて比べる。</p>	<p>算 「おおきいかず」で120ぐらいまでの数について、大きさを比べ、10のまとまりで数の合計や分解をする。</p>	算数	
からだ	<p>体① 体の成長を知ることで、自分の体に関心を持ち、大切にしようとする。</p> <p>体② すすんで戸外で体を動かして遊び、鉄棒をつかった遊びを楽しむ。</p>	<p>体① 「跳び箱」等、手足の力を総合的に使った運動遊びを楽しむ。</p> <p>体② 「マット遊び」等、体を柔軟に使う運動遊びを楽しむ。</p> <p>体③ 水にかかると浮く等、水に慣れる遊びをする。</p>	<p>体① 音やリズムに合わせて動きをコントロールする面白さを味わう。</p> <p>体② 全力でトラックを走ったり、くねくね走や障害物をこえたり、体をコントロールして走ることを楽しむ。</p> <p>体③ 「いす取りゲーム」「こおり鬼」など、歩く・走る・止まるなど体を操作する遊びをする。</p>	<p>体① ドッジボール、サッカー遊びなど、基本的な動きを多様な動きに発展させるボール遊びを楽しむ。</p> <p>体② ゴム跳び、縄跳びなど、全身を使った跳躍運動を楽しむ。</p>	<p>体 固定施設や器械・器具などを使ったいろいろな遊び方を楽しんだり、友だちと競争したりして、運動する楽しさに触れる</p> <p>体 かけっこやリレー遊びを楽しく行い、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりする。</p>	<p>体 水に顔をつけ、水中で目を開けたり、口や鼻から息を吐いたり、つかまって浮いたりする。</p> <p>体 マットを使っていろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をする。</p> <p>体 的当てやキャッチボール、攻めと守りのあるボールゲームをする。</p>	<p>体 ボールをける、止めるなどの簡単なボール操作やボールを持たないときの動きを使って、ゲームをする。</p> <p>体 跳び箱を使って跳び乗りや跳び下り、馬跳び、タイヤ跳びなどをして楽しく遊ぶ。</p>	体育	
しぜん	<p>自① 身近な草花や生き物に親しみ、自然の不思議さに気付く遊びをする。</p> <p>自② 土・砂の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。</p>	<p>自① 野菜や花の特徴や生長に興味をもって世話をする。</p> <p>自② 吹き流し、紙飛行機、シャボン玉など、風に興味をもち性質に気付く遊びをする。</p> <p>自③ 水の性質に気付き面白さがわかる遊びをする。</p>	<p>自① 木の葉や実を集め、自然の変化の不思議さや美しさに気付く遊びをする。</p> <p>自② 転がし遊びやゴムのおもちゃ作りなど、物事の法則性に気付き面白さがわかる遊びをする。</p> <p>自③ 身近な小動物や生き物の命の大切さに気付きながら世話をする。</p>	<p>自① 雪遊びや生活の変化など、雪や氷、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付く遊びをする。</p> <p>自② ステンドグラスや影踏み遊びなど、光と影に興味を持ち性質に気付く遊びをする。</p>	<p>生 「さあ、さんぽにいこう」で身近な生き物や草花に興味をもってかかわり、紹介する。</p> <p>生 「さかせてみたいな はないっぱい」では、植物のたねまきから水やり、草取りなど継続した世話をする。</p>	<p>生 「みずやつちであそぼう」で遊びを考えることで素材の特徴を捉え、自然の不思議さ、面白さを実感する。</p> <p>生 「はや木のみであそぼう」で秋さがして見つけてきた葉や木の実を用いた遊びや作品づくりを通して季節の変化に気付く。</p>	<p>生 「ふゆの たからさがしだ」でこれまでと同じ場所に行き、諸感覚を働かせて春・夏・秋と比べての違いに気付く。</p> <p>生 「かぜやゆきとあそぼう」で冬の特徴である風、雪、氷などを遊びに工夫して生かす。</p>	生活	
やくそく	<p>約① 登園してから降園するまでの一日の生活の約束をまもって生活する。</p> <p>約② 伝承遊びや運動遊びなど、様々なルールのある遊びをする。</p> <p>約③ みんなで使うものや公共のものの使い方を考える。</p>	<p>約① ボール遊びや渦巻きじゃんけんなど、ルールを作る遊びをする。</p> <p>約② 当番活動や片づけなどの決まりを作ることで、皆が気持ちよく生活できるように気付く。</p> <p>約③ 友だちと意見が違った時など、言葉を交わして解決する経験をする。</p>	<p>約① 大勢の友だちがかかわる遊びを通して、ルールなど工夫したりチームに分かれたりして遊びを発展させる。</p> <p>約② 集団生活の流れや時刻を意識し、皆と一緒に行動しようとする。</p>	<p>約① 大縄跳びなど、みんなで力を合わせる遊びをする。</p> <p>約② 交通ルールを守って歩いたり危険から身を守る知識を持つ。</p>	<p>生 「できるといいね」でトイレ、手洗い、靴箱、ロッカー等の使い方がわかり、気持ちの良い学校生活を送るためにきまりを守ることが大切であることに気付く。</p> <p>生 「じゅぎょうのやくそく」で授業中の決まりや約束を理解しこれからの学習への意欲をもつ。</p>	<p>道 「たびに出て」の読み物資料を学習し気持ちのよいあいさつ言葉づかいなどに気を付けて生活しようとする。</p> <p>道 「すなおにのびのびと」を学習し、うそをついたりごまかししたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする。</p>	<p>道 「いのちを大切に」を学習し生きることの喜びを感じ命を大切にすることを学ぶ。</p> <p>道 読み物資料「黄色いベンチ」を学習し、約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にしようとする。</p>	道徳	
つながり	<p>つ① 散歩の時など、地域の人に触れ合う機会を持つ。</p> <p>つ② ALTとはじめましての出会いをする。</p>	<p>つ① 七夕お楽しみ会や運動会にむけて、地域の人や卒園生にあてた絵の招待状をつくる。</p> <p>つ② 学校探検などで地域の小学生と交流を持つ。</p> <p>つ③ ALTの国の歌や手遊びを楽しむ。</p>	<p>つ① 地域の方々と小学生に遊びを教わりながら遊んだり、運動会などに一緒に参加する。</p> <p>つ② 仕事に関心を持ち、お店屋さんごっこなど役割遊びの中に取り入れ発展させる。</p> <p>つ③ ALTの国の絵本などを楽しむ。</p>	<p>つ① 小学校へのおこがれを育てる遊びや活動をする。</p> <p>つ② ALTの国の冬の行事や遊びの歌を楽しむ。</p>	<p>生 「ともだちになろう」で新しい友だちと仲よく遊びながら人間関係を作っていくようにする。</p> <p>生 2回目の学校探検「おしえてください」で、先生や学校で働く人たちと話をしたり上級生といっしょに学習したりする。</p>	<p>生 「みなさんようこそ」で幼稚園・保育所の子たち、地域の方々などのお客さんと遊びを楽しむ活動をする。</p> <p>外 ALTとの出会いを通して、身振り手振りや表情を使って気持ちを表す方法を知る。</p>	<p>生 「あたらしい1年生のために」で2年生に向けての期待や自覚を持つとともに次の1年生にしてあげられることを考える。</p> <p>外 外国の祭りや行事を通して異文化の存在を知る。</p>	特活・生活 外国語	
育みたい 資質・ 能力	遊びや生活を通した気付き					教科等を通した学び			
	幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通じて育む。					教科等の指導・活動を通じて育む			
	1. 知識や技能の基礎 :遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか。					1. 知識や技能 :何を知っているか、何ができるか。			
	2. 思考力・判断力・表現力等の基礎 :遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。					2. 思考力・判断力・表現力等 :知っていること、できることをどう使うか。			
3. 学びに向かう力・人間性等 :心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか。					3. 学びに向かう力・人間性等 :どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか。				

引用・参考文献

- ◇「小1プロブレム」に挑戦する（新保真紀子著 明治図書 2001年）
- ◇接続期をつくる 幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働（お茶の水女子大学附属幼稚園 東洋館）
- ◇幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成20年10月）
- ◇保育所・幼稚園の保育と小学校教育の連携（田口 鉄久）
- ◇小1プロブレム研究推進プロジェクト報告書（東京学芸大学 平成22年3月）
- ◇幼稚園教育要領・保育所保育指针对照表（子ども指針ワーキングチーム 平成22年9月29日）
- ◇幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議 平成22年11月11日）
- ◇ひめじ保幼小連携教育カリキュラム活用リーフレット（姫路市教育委員会）
- ◇つながる子供の育ち（山口県教育委員会）
- ◇アプローチカリキュラム編成の手引（愛知県教育委員会）
- ◇幼児教育と小学校教育の連携ガイドブック～スタートカリキュラム事例集～（大分県教育委員会）
- ◇学びをつなぐ 希望のバトン カリキュラム（福井県幼児教育支援センター）
- ◇スタートカリキュラムスタートブック 必携！（文部科学省 国立教育政策研究所 平成27年1月）
- ◇教育課程部会幼児教育部会資料（文部科学省 平成28年3月30日）
- ◇幼児教育の現状と課題について（成田 英範 平成28年6月）
- ◇次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（中央教育審議会教育課程部会 2016年8月26日）
- ◇幼稚園教育要領の改訂ポイントメモ（無藤 隆 2016年9月18日）
- ◇「幼小接続」から「幼小一体」へ（神戸大学附属幼稚園・付属小学校 平成28年11月）
- ◇小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し（丸山 美和子 かもがわ出版）
- ◇保育とおもちゃ（瀧 薫 エイデル研究所）

- ◇ 小学校国語年間計画作成資料（光村図書）
- ◇ 新編 新しい算数年間計画作成資料（東京書籍）
- ◇ 小学校体育年間指導計画作成資料（学研）
- ◇ わかる！スタートカリキュラム 生活科教科書教授資料（日本文教出版）

関係機関一覧

- ◇ 名張市教育委員会学校教育室：名張市鴻之台 1 番町 1 番地 TEL（0595）63-7882
- ◇ 名張市福祉子ども部保育幼稚園室：同上 TEL（0595）63-7919
- ◇ 名張市教育センター：名張市百合が丘西 5 番町 25 番地 TEL（0595）64-8801
- ◇ 名張市子ども発達支援センター：同上 TEL（0595）62-1088
- ◇ 名張市こども支援センターかがやき：名張市桔梗が丘西 3 番町 3 街区 107 番地 TEL（0595）67-0250

編集関係者一覧（名張市幼児教育の推進体制構築事業実行委員会委員）

- ◆ 田口 鉄久 鈴鹿大学短期大学部 教授
- ◆ 高嶋 正広 名張市教育委員会 教育次長
- ◆ 杉本 一徳 名張市福祉子ども部 次長
- ◆ 内匠 勝也 名張市教育委員会 教育総務室 室長
- ◆ 中森 早苗 名張市教育委員会 学校教育室 室長
- ◆ 山岡 尚子 名張市福祉子ども部 保育幼稚園室 保育指導担当室長
- ◆ 岡崎 みどり 名張市子ども発達支援センター センター長
- ◆ 市橋 秀介 名張市教育委員会教育センター センター長
- ◆ 稲森 理伸 名張市立比奈知小学校 校長
- ◆ 山本 卓生 名張市立桔梗が丘東小学校 教諭
- ◆ 竹延 香 名張市立名張幼稚園 園長
- ◆ 中出 かおり 名張市立錦生保育所 所長
- ◆ 北畑 維久子 名張市教育委員会 幼児教育アドバイザー
- ◆ 小島 淳子 名張市教育委員会 幼児教育アドバイザー
- ◆ 荻田 貴子 名張市福祉子ども部 保育幼稚園室 副参事
- ◆ 福島 由夏 名張市教育委員会 学校教育室 指導主事
- ◆ 森永 美紀子 名張市教育委員会 学校教育室 指導主事

幼児教育の推進体制構築事業の概要

平成28年度幼児教育の推進体制構築事業(文部科学省)



幼児教育の推進体制構築事業 平成28年度予算額 203百万円(新規)

- すべての子供に質の高い幼児教育の提供を目指す、子ども・子育て支援新制度の施行により、幼児教育の提供体制の充実が図られているところであるが、**提供される幼児教育の内容面についても充実を図る必要がある。**
- **幼稚園・保育所・認定こども園を通して、幼児教育の更なる質の充実を図るため、地域の幼児教育の拠点となる「幼児教育センター」の設置や、幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置など、以下の課題等への効果的な対応のために適切な、地方公共団体における**幼児教育の推進体制を構築するためのモデル事業を行い、好事例を収集・分析した上でその成果を全国展開する。****

- ① 都道府県による私立幼稚園・保育所等を含めた研修機会の提供の在り方 ② 研修の提供に当たっての大学等、地域の養成機関との連携
 ③ 都道府県による域内市町村に対する助言・指導の在り方 ④ 市町村による域内の幼児教育施設への助言等の在り方
 ⑤ 助言等を行う人材の育成方法 ⑥ 幼保小接続の課題へ対応するための幼児教育施設・小学校双方での対応の在り方 等

